

巻 頭 言

フレッシュ&フリー

愛知県技術士会代表幹事 柴田素伸

皆様方のご協力をいただき、愛知県技術士会も新しい年を迎えることができました。日ごろのご理解とご協力に深く感謝する次第です。

さて、月日の経つのは早いもので、愛知県技術士会の代表幹事を引き受けてほぼ2年が経過しました。この間「魅力づくり」をモットーにしてきましたが、果たしてどんな魅力が生まれたのか、はなはだ心もとないのがいつわらざる心境です。

今年も、4月から新しい年度が始まりますが、幹事の方のうち何名かの方が止められ、交代することになります。幹事になっていただくと毎月第土曜日は幹事会や発表会、見学会などに参加していただくことになります。私の場合は、ワーキンググループ活動にも参加するので第1,第2土曜日もつぶれるため、家族にとっては魔の土曜日となっています。そんなことなら幹事なんかやっていたらいいというかもしれませんが、いいことも多々あると思っています。

まず、会議で話し合うことは頭の刺激になります。隔月に行われるイベントは幹事の方に手分けして世話役を引き受けていただいています。内容の企画や依頼事などはよい刺激となりますし、多くの方々とのお付き合いも始まります。企画書や案内状の作成は作文能力や表現能力の低下防止になります。各種の行事を通して友人が増え、人脈形成の助けになると思いますし、外出することは運動することにもなります。ですから、私はいろいろなテーマについて幹事会で話し合いができることをうれしく思っています。時には結論が難しく決断するのに勇気がいることがありますが、優秀な幹事の方々に信頼して、決めさせていただきます。

魅力づくりは1年や2年で達成できるものではありませんが、いつまでも標榜することでもないでしょう。考え方のベースとして持ち続け、その上に新たな目標を作りたいと思います。

今年は、愛知万博 - 愛・地球博 が開催されます。これにあやかって、種々の企画には工夫を盛り込んだフレッシュでフリーな活動を展開して、会員の皆様に愛されるよきサポート組織でありたいと思っています。

今年もよろしく願いいたします。

(なお、幹事をやってみようとお考えの方は編集子の方へご一報ください。)

- 完

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 Email: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

お知らせコーナー

「ふれあい技術士プラザ」のご案内

日 時：平成17年2月19日(土) 13:30～17:00 (受付開始 13:00)

場 所：花車ビル北館 5F 会議室 (地下鉄桜通線国際センター3番出口すぐ)

1. 開会挨拶：柴田代表幹事 (13:30～13:35)
2. 講演 (13:35～15:00、質疑10分程)
「超はっ水のはなし」

名古屋大学エコトピア科学研究機構・教授 高井 治

3. 休憩 (15:00～15:15)
4. 業務自己紹介 (15:15～15:45)
5. 休憩 (15:45～16:00)
6. 懇親会 (16:00～16:45)
7. 内田副代表幹事閉会挨拶 (16:40～16:45)
8. 間瀬副代表幹事締め (16:45)

参加費(資料代含む): 2,000円 (当日会場でお支払い下さい)

申込み: E-mailまたはFaxにて、2月15日(火)までに、下記中部支部事務局(松田
まで連絡願います。

E-mail: g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

Fax : 052-533-1305

ファックスで申込の方は支部事務局にお問い合わせください。

平成17年度活動予定

平成17年度の活動予定として下記を企画しております。詳細は今後、幹事会にて煮詰めていくこととなりますが日程は確定しております。会員の皆様方におかれましてはスケジュール表に下記の日程をご記入頂き御参加頂きますようお願いいたします。

- 04月16日(土) 平成17年度定時総会
- 06月18日(土) あいち技術士交流会
- 08月20日(土) 講演会
- 10月15日(土) 業績発表会
- 11月(日程未定) 見学会
- 02月18日(土) ふれあい技術士プラザ

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 E-mail: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp
2/4

「広場・湖海の土」No. 27

『蛇口から水が飲める文化を大切にしたい』

中西 利美（上下水道部門）

私の専門は上水道です。最近の人々の水道離れの危機について述べたいと思います。

我国の水道は、清浄と思われる井戸等の水をそのまま飲料していたものを、明治20年に消化器系伝染病から国民を守るためにろ過や消毒といった衛生施設が付加された近代水道が始まりました。その後、設備機器の開発に伴い現在のような高圧給水が可能となったとき、消防利水がない都市において、水道は防疫と同時に消防上のかかせない消防利水の役割を担うことになりました。明治から昭和へと急激な人口増加や都市活動の増大に追いつくために水源開発から配水施設の建設を無我夢中で行ってきました。その間、戦争、渇水、地震、洪水、オイルショック等幾多の困難を乗り越えるための方策を模索し、もの創り日本の技術革新に支えられ、低廉・清浄・豊富を目標に掲げ、国民皆水道を目指しました。水道の普及（各家庭への蛇口の設置）は、女の仕事のひとつであった水汲みから解放し、人口増加、平均寿命の伸び、女性の社会進出に寄与することになりました。私が今も勤務し続けられるのも水道の蛇口のお蔭です。途上国では、現在も水汲みは女子供の仕事です。しかも決して衛生的とはいえない水を。

しかし、わが国においても近年負の遺産による水源域の環境破壊や汚染により、良質な水源が希薄な状況にあると同時に、各家庭への輸送管（水道施設の約7割を占める配水管）の老朽化による赤錆、水道事業体が口を挟めなかった宅地内給水管、ビル・マンション内受水槽の清掃管理の不備や追塩素消毒の問題等、水道事業体が供給する安全な飲料水質に危害を加える結果となっている事例が多くなり、水道離れを誘発しています。これらは、給水人口減少による収入減を招き、水道施設の老朽化、質の向上にかかせない計画的な更新ができないという悪循環を招いています。これらを打開するために、次世代を見据えた施策として2004年6月に「世界のトップランナーを目指してチャレンジし続ける水道」を基本理念として掲げた「水道ビジョン」が厚生労働省から公表されました。これら水道ビジョンを踏まえ更新事業の必要性を広く使用者に理解していただけるよう 国民の安心、安定的な供給、持続可能な経営基盤、文化・技術の継承、給水サービス、環境保全への貢献、国際貢献・調和の5本柱に「管理」を加えた「水道事業ガイドライン」が、国際規格（ISO/TC224）とは別個に、日本の水道レベルに合わせた独自の業務指標「水道の成績表」をパブリックコメントを繁栄させて作成されました。

現在、水道一家といわれた経験豊富な技術者が老齢化し、行政の組織機構も大幅に変化し、職場間の移動が頻繁に行われるようになり技術の継承が希薄化してきております。この水道指定工事店の技能のばらつきの例として、我家において、住宅取得後半年以内に2

箇所の蛇口のみ赤水が出るので、工事業者に問い合わせたところ“宅内配管でライニング鋼管を接続する際、ねじを切って接続した”との答を聞いた時、つい心で“アホ”と叫んでしまいました。修理していただいたのですが、完全に治すためには、住宅を一部はつってする必要があります。といわれたので、これ以上変に手を加えられるよりこのままで、仕組みがわかって飲んだほうが安全と判断しました。おいしく快適な水道水がこのような形で台無しにされているのだと実感しました。また、息子が、「お母さん水道水は危ないんだってね？本当！」と「誰が言ったの？」と聞くと「保険の先生」というので「先生はどこが危険と思うのか理由を言った？聞いてみて」というと「いやだ」と言われてしまいました。が、これまでマスコミ等を媒体に報道された情報量に比べ、水道事業者として、使用者のニーズの変化に応じた情報公開が重要であると同時に、その手法の重要性を実感しているところです。

水道離れが叫ばれている現在でも、日本の文化として蛇口から水を飲むことへの誇りを失わないように、人の健康を支え、環境に配慮し都市の活性化に貢献しようと日々努力しております。

昨年、世界中で甚大な被害をもたらす災害に見舞われ、そのつどライフラインとしての水道の重要性が報じられています。伝染病予防や災害復興には欠かせない水、体に影響の少ない消毒薬の入った安全な水道水が蛇口から必要な量供給されることの大切さを再確認すると共に、水道の技術を見につけたものとして番人になりたいとも思います。

皆様、闇雲に塩素臭のする蛇口の水を“まずい”“発ガンの危険性がある”“水道料金が”高い”と水道料金の1000倍以上も高価なミネラルウォーターやボトルウォーターに飛びついてしまうのもいいのですが、蛇口が持つ意味をもう一度考えてみてはいかがでしょうか。水道水もペットボトルに入れるとボトルウォーターになることをご存知でしたか？

私は今後とも、先人が培ってきた蛇口から水の飲む文化を大切にしていきたいと感じています。 以上

(次回は水野朝夫先生にリレーします。)

愛知県技術士会会員の移動

新入会 (なし)

退会 (なし)

編集後記

スマトラ沖の地震による被害は当初の予測を大きく上回る最悪の結果となりました。津波の危険に対する情報伝達の甘さが被害を拡大させた訳ですが決して他人ごとではありません。東南海・南海地震など、この地でもいつ起きても不思議ではない災害が予測されております。災害時に先ず必要な物は水と食料、そして人と人とのコミュニケーションです。この災害を機に今一度、災害時の備えを確認してみたいと思います。(会報編集委員:間瀬)

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 E-mail: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp